

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院大學140周年記念誌

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2024-11-27 キーワード (Ja): 377.28, 国学院大学 コクガクインダイガク キーワード (En): 作成者: 國學院大學 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001192



法人傘下校・関係法人

法人傘下教育機関
204

國學院大學院友会
208

國學院大學栃木学園
209



学校法人國學院大學では、昭和23年の國學院高等学校開校以来、幼児教育から高等教育に至る諸学校を開設してきた。神道精神に基づく研究教育を建学の精神とした伝統を継承し、時代に即した幅広い研究教育活動を各校で展開してきた。この10年における各校のさまざまな取り組みについて、周年記念事業を中心に引き上げる。

法人傘下教育機関

國學院大學北海道短期大学部

國學院大學北海道短期大学部は、昭和57年（1982）4月に「國學院女子短期大学」として開学、平成3年（1991）には男女共学になり「國學院短期大学」と改称し、さらに平成21年には現在の名称へ改め、令和4年（2022）に開学40周年を迎えた。

國學院大學の短期大学部北海道キャンパスとしての役割を担いつつ、北海道道央の中空知地区、特に滝川市との連携を深め、平成26年には「地域福祉人材奨学制度（中空知地区対象）」を創設した。現在は「豊かな地域人材奨学制度」へと全学科を対象とした奨学制度へ変更をおこない、國學院大學への編入学後にも対応するなど、地域と共生する高等教育機関として、地方創生の中核となる人材育成を目指す教育に取り組んでいる。また、北海道という地域性を活かし、アイヌ関連の講座や「ペカンペ祭」などアイヌ文化継承事業に取り組み、創設された「金田一記念文庫」の資料により令和3年に國學院大學博物館企画展「アイヌプリ」を開催した。

国文学科、総合教養学科、幼児・児童教育学科において専門的な知識・技術の習得、職業教育に取り組むとともに、國學院大學等への編入学支援対応の科目を開設するといった、進学・就職に関する学生支援の充実を図ってきた。平成24年にはアメリカ・スプリングフィールド大学と教育連携に関する協定を締結し、短期留学制度が設けられている。なお、平成7年度開設の専攻科国文専攻・英語専攻、平成12年度開設の専攻科福祉専攻は学生募集の観点から令和元年度より募集を一時停止している。

新型コロナウイルス感染症対策としては、サーモグラフィを設置するなど学内の環境整備を整えつつ、オンラ



國學院大學北海道短期大学部

イン授業を実施した。授業の一環として募集した「オンライン授業川柳」は、地元紙および北海道内民放でも取り上げられ、秀作・佳作ほか15首が地元紙に掲載された。

記念事業

令和4年に開学40周年を迎えたが、社会情勢に鑑みて、記念式典は執り行わないこととし、質素を基本としながら、次の記念事業を実施することとした。

まず、同年6月9日に、19回目となる大蔵流宗家山本東次郎家ご一門による「狂言公演」を開催し、9月16日には、同年4月にスタートした國學院大學観光まちづくり学部西村幸夫学部長を講師にお迎えして記念講演会を開催した。同学部と、短期大学部および滝川市とその周辺地域との連携強化を図る契機とした。また、学生がさまざまな活動でもっとも多く利用する学生ホール（学生食堂）のテーブル・椅子など、開学当初からの備品の老朽化が著しいことから、一新して機能の充実と利便性の向上を図った。そのほか、歴史を綴る『記念誌』の発行や公式HPへの「國短 History」の掲載、さらには國學院大學北海道短期大学部協力会（滝川商工会議所受託団体）の事業として、「短大PR用看板の書換え」「市庁舎に新入生歓迎の懸垂幕の設置」「市庁舎ロビーで記念パネル展」「市立図書館との連携イベント」などを実施した。

地域連携

地域と共生する高等教育機関として、地方創生の中核となる人材育成を目指す教育に取り組むうえで、地域との連携は必須であり、教育・事業・災害時など多岐にわたる連携協定を結んでいる。平成16年に北海道滝川西高等学校と連携協定を締結し、平成25年に新十津川町教育委員会、平成26年に砂川高等学校と連携協定を締結した。砂川高等学校との福祉教育連携事業を中心に小・中・福祉施設と協力しておこなう「福祉のしごと魅力アップ事業」は北海道の補助事業に採択された。その他滝川市・滝川商工会議所との地域連携協議会が発足した。平成27年には地元滝川市との包括連携協定を締結し、地域との協力関係を構築したことが評価され、文部科学省平成27年度「私立大学等改革総合支援事業」タイプ2「地域発展」に選定された。令和2年には災害時における代替施設使用に関する協定を滝川警察署と結び、北海道初の警察署と高等教育機関との災害協定締結となった。

連携協定のほか、地域交流事業として、中空知地区5市5町が協力してイベントや文化事業を推進するCCC

（コミュニティ・カレッジセンター）への参加や市内クリーン作戦（学生・教職員と家主連絡協議会共同）などがあり、さまざまなボランティア活動、学生による地元誌プレス空知「News CATY」の刊行（2022年7月号で146号）やコミュニティFMでの放送などを通して、学内外の情報を発信している。また地域の子育て支援として、子育てサロン「ありす」や子育て相談、音楽劇やパネルシアターを保育所といった施設へ出向いておこなう「ありす座」などを開催した。さらに地域の生涯学習の場として、オープンカレッジや出前講座などの開講、学生サークルとオープンカレッジ受講生による作品展示・発表会である「はる展」を開催している。

新型コロナウイルス感染症の影響がおよぶなかで、これまでの「地方創生」の取り組みもあって、滝川市から全学生に対して支援米が配布された。

國學院高等学校

昭和23年に國學院大學予科を前身として開校した國學院高等学校は、平成30年に開校70年を迎え、4万人を超える卒業生を世に送り出している。教育活動においては、海外留学を含む語学研修や文学・歴史・科学研修といったさまざまな探究学習が実施され、令和元年からは國學院大學・明治大学・東京理科大学との高大連携による学習がおこなわれている。また難関大学への入試対策として進学講習会を開設し、理系科目に関するカリキュラムの変更、英検講習会などの学習対策の充実が図られ、平成29・30年には英検合格者数で全国第1位となるなど、その成果が見られる。

新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう対応として、各教科において動画配信によるオンライン授業が導入され、ICT環境の整備が進められた。



國學院高等学校外観

記念事業

平成 30 年の開校 70 周年に際しては、『開校 70 周年誌』『外苑春秋』（研究論文集）の刊行、記念切手シートの発行、日本文化史資料館所蔵品と体操部の軌跡をそれぞれ記録した DVD を作成し関係者へ配布した。また学校主催の祝賀会のほか、國學院高等学校同窓会との共催による祝賀会を兼ねた記念同窓会大会、卒業生である、さだまさし氏による記念コンサートを開催した。さらにこの年は特別に、通常 2 日間の文化祭を 3 日間の開催とし、計約 1 万人の来場者を集めた。

國學院大學久我山中学・高等学校

國學院大學久我山中学・高等学校では、男女別学、中高一貫教育の利点を活かした学年縦断的な教育の実践に取り組んできた。

男子部・女子部ともに「能楽教室」などさまざまな特別講座や体験プログラムを実施しており、そのうちイングリッシュサマーキャンプ、グローバル・リーダーシップ・ワークショップ、「Math in English」などを、国際社会を生き抜く人間としての成長を目指す国際理解教育プログラムとして平成 28 年に一元化した。平成 30 年には中学女子部に「CC（カルチュラル・コミュニケーション）クラス」を新設し、また令和元年にはオーストラリアの「The Southport School」から 44 名が来校し、ラグビー交流やホームステイをおこなうなど、国際理解教育の定着・推進を図っている。

新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう取り組みとして、感染防止のための設備を充実させる一方、授業や説明会などはオンラインと対面を複合展開するなど ICT 教育の進展がみられた。さらに令和 2 年には中高男

女の協働・生徒主体による文化祭「久我山祭」が、動画配信・ライブ配信によるオンラインで実施された。

記念事業

昭和 19 年 4 月に岩崎学園（のち久我山学園、昭和 27 年に國學院大學と合併）として創立した國學院大學久我山中学・高等学校は、平成 26 年に学園創立 70 周年を迎えた。この記念事業として石彫モニュメント「天球」の設置とさだまさし氏による記念行事コンサートが開催された。また、平成 21 年度策定の建造物等改修 10 カ年計画をもとにさまざまな改修が進められた。平成 29 年度に改修を終えた第 3 グラウンドは、地域の少年ラグビー、サッカースクールなどへも供与し、地域貢献活動の拠点となっている。令和 4 年度からは、近隣に位置する東京都立青光学園の在籍園児生徒の利用にも便宜を図っている。

國學院大學附属幼稚園

國學院大學附属幼稚園は、令和 4 年に創立 70 周年を迎えるなか、古武道・合気道や和太鼓・獅子舞などの体験プログラムを通じて「伝統文化・伝統行事」にふれる教育に取り組んでいる。礼儀作法の学びの一環としての神殿参拝、また博物館見学をおこなうための渋谷キャンパス訪問、運動会のボランティアや就職研修制度の構築といった人間開発学部との連携、また隣接する久我山中学・高等学校との体育・芸術・家庭・英語などの合併授業開講といった法人連携を深めている。

一方、バルシューレ教室などの多様な課外活動や「パパ会」の発足、お月見会と雅楽の演奏会のインターネット配信といった園児と保護者にむけての取り組みとともに、



國學院大學久我山高等学校外観



國學院大學附属幼稚園

未就園児対象クラスの開設や杉並区幼保小連携事業といった地域の子育て支援もおこなっている。

記念事業

創立 60 周年である平成 24 年には記念式典・祝賀会を開催し、記念誌を発行した。また記念事業として園舎の大規模改修を翌年にかけて実施した。平成 29 年には創立 65 周年記念事業として園庭(路盤工事・U 字溝設置・ゴムチップ敷設)の改修・プールのリニューアル・2 階テラス活用のために電動テントを設置した。

國學院幼稚園

國學院幼稚園では、平成 27 年度から「おたのしみ昼食会」の実施や、お泊り保育、大学の施設を利用した運動会・発表会(現おゆうぎ会)などさまざまな行事を実施してきた。新型コロナウイルス感染症の拡大下にあってもオンラインでの「紙芝居・人形劇」の配信や、感染対策に留意しながら「青空ダンスの会(親子参加行事)」「ちびっこ柔道体験入門」などをおこなった。また平成 25 年には制服をリニューアルした。

地域子育て支援事業の「ママとなかよし会」「未就園児クラス『もも組』(プレ保育)」「にこにこクラブ(預かり保育)」などの継続実施のほか、平成 27 年には送迎バスの運行、平成 30 年度からは早朝の預かり保育を開始し、地域のニーズに合わせた保育を提供している。

平成 26 年からは人間開発学部子ども支援学科の学生の実習やインターンシップの受け入れ、教諭の採用、運動会でのボランティア協力など大学とさらなる連携を図っている。



國學院幼稚園

記念事業

創立 45 周年を迎えた平成 26 年 10 月 31 日に記念式典をおこない、園舎などの改修工事を実施した。令和元年には開園 50 周年を迎え、10 月 26 日に記念式典がおこなわれた。記念事業として梅(しらうめ)の植樹や保育室の改良工事・壁面や遊具の塗装などをおこない、保育環境の整備を図った。

國學院大學幼児教育専門学校

昭和 29 年 10 月に開校した「國學院大學幼稚園教員養成所」を前身とした國學院大學幼児教育専門学校は、平成 25 年度の國學院大學人間開発学部「子ども支援学科」の開設にともない、平成 25 年 3 月 31 日(3 月 28 日学校廃止認可)をもって閉校し、58 年 6 ヶ月の校史に幕を下ろした。

閉校までに保育科(教育・社会福祉専門課程)8,600 余名の卒業生と、専攻科 600 余名の修了生を幼児教育・保育の現場に送り出し、高い評価を受けてきた。なお、閉校後の学校業務は國學院大學に引き継がれ、校舎は改修工事後、たまプラーザキャンパス 5 号館として使用されている。

記念事業

平成 25 年 3 月 14 日に専攻科の第 8 回修了式がおこなわれ、最後の修了生 42 名へ修了証書が授与された。同日午後にはリズム室にて「閉校の集い(閉校式)」が実習就職協力幼稚園・保育所・施設、法人関係者、旧教職員、卒業生らの出席のもと開催された。また、3 月 21 日には記念樹として紅梅・白梅が坂口吉一理事長、荒川御幸校長、全教職員、若葉会(専門学校同窓会)役員により植樹された。



國學院大學幼児教育専門学校

國學院大學院友会



國學院大學院友会は、明治20年（1887）に皇典講究所の卒業生による「水穂会」結成を創始とし、令和4年で発足135年を迎える。

一般財団法人への移行

国により進められた公益法人制度改革により、旧財団法人であった國學院大學院友会は、平成24年（2012）10月1日に一般財団法人國學院大學院友会へと移行した。この年は、奇しくも本学創立130周年、院友会発足125年の年であった。

一般財団への移行により、同窓会事業を主たるものとする法人に止まらず、これまでもおこなってきた公益事業をより明確化して、広く公益性（社会貢献）を求められる法人へと生まれ変わった。この公益性については、移行に際し理事会で積極的な「学生支援事業」「社会貢献事業」「國學院大學への寄与事業」を決定し、行政庁である内閣府に認められた『公益目的支出計画』に基づき堅実な事業を推進するものである。

学生支援事業

院友会内で育成事業と位置づけ、卒業生（院友）から寄せられた浄財を基に、学術・スポーツ振興資金制度をはじめとしたさまざまな事業がおこなわれている。特に本学の強化部会への支援が主となっている学術・スポーツ振興資金では、制度創設以来総額6,777万円の学生への支援がおこなわれた。

社会貢献事業

講座・講演会事業を主としたもので、院友会本部と支部が一体となり地域への貢献を目的として展開している。本部では、毎年の院友大会に合わせて一般公開講演会を開催しており、これまでに櫻井よしこ氏や上野誠氏ら時宜を得て著名な方を講師に迎え、毎回大勢の来場者を得ている。また支部での事業は、各地の特色が活かされたものとなっており本学ならではの社会貢献事業ともいえる。

院友会の一般財団法人への移行とときを同じくして、日本の各地で自然災害が発生した。平成23年3月の東北地方太平洋沖地震、平成28年4月に発生した熊本地震などにともなう多くの災害に、吉田茂穂会長ほか役員は胸を痛めていた。早速に院友会では「大規模災害被災

地支援事業」を公益事業の一環として位置づけ、当該支部を中心に被災地の伝統文化や芸能の継承に関する多くの事業をおこなった。地元の方々に元気づけようとの熱い想いを胸に、現在まで続いている。

國學院大學への寄与事業

院友会では、母校である國學院大學に対し毎年計画的な寄付をおこなっている。特に、大規模災害学費減免制度や、新型コロナウイルス感染症関連の緊急修学支援費などへも積極的に協力している。

同窓会組織としての取り組み

平成29年11月1日には、院友会発足130周年記念奉告祭が大学神宮において斎行され、吉田会長以下役員が参列した。なお、大学からも当時の坂口吉一理事長、佐柳正三常務理事、赤井益久学長が参列した。



毎年大勢の卒業生が集う院友大会

現在、年間3回発行し、住所が判明しているすべての卒業生に送っている『院友会報』は、令和4年（2022）3月に380号を迎えた。年1回開催の院友大会は、再開が終了した近代的キャンパスを多くの卒業生に見ていただくことを一つの目的として、平成29年度から会場を渋谷キャンパスに移して催されている。

学術・スポーツ・社会貢献などの各分野において、大学の名声を高めた顕著な活動を称えることを目的として、院友会でも独自に〈院友会長賞〉を設けており、これまで院友の部で10名に、学生の部で13名と8団体に授与している。

令和2年度と同3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの活動が自粛を余儀なくされた。しかし、令和4年度は本部・支部がより強固に繋がり、本来の活動再開に向けて動き出している。

今後の取り組み

情報化社会への対応や中長期計画の策定、安定した事業推進のための新たな財源の確保など、今後必要な取り組みが期待されている。

國學院大學栃木学園

本学と建学の精神をともにする一心同体の姉妹法人である学校法人國學院大學栃木学園は、昭和35年（1960）の國學院大學栃木高等学校の開校以来、令和4年（2022）10月に学園創立62周年を迎えた。

学校法人國學院大學栃木学園は、國學院大學栃木短期大学・國學院大學栃木高等学校・國學院大學栃木中学校・國學院大學栃木二杉幼稚園からなる。令和2年12月、木村好成理事長の死去にともない、川福基之学事顧問が第5代理事長に就任した。

平成25年（2013）には50周年記念歌「学びのふるさと」（作詞上野誠氏・作曲さかはし矢波氏）を発表、高等学校ミュージカル部員の合唱により披露された。平成27年には学園創立55周年を迎え、10月8日に奉告祭および関係物故者慰霊祭が、翌9日に記念式典が、いずれも四十周年記念館を式場として来賓・法人役員・教職員・学生生徒列席のもと挙行された。また、令和2年10月9日には四十周年記念館において、来賓、法人役員、短期大学・高等学校・中学校・幼稚園の各教職員ならびに学生・生徒が列席し、学園創立60周年奉告祭および記念式典が挙行された。

学園施設としては、平成30年2月にラグビー場が、3月に高等学校男子寮「好文寮」が新設された。ラグビー



國學院大學栃木学園

場には、全天候型の人工芝グラウンドが整備され、体育の授業・学校行事での使用のほか、主にラグビー部・サッカー部の練習場として使用している。「好文寮」は定員144名、全室冷暖房・Wi-Fi完備で、その名は水戸の偕楽園にある「好文亭」に因む。また学園内校舎などの耐震計画を策定し、昭和56年以前に建設された建物を対象に施設設備の耐震補強改修事業が進められている。

國學院大學栃木短期大学

國學院大學栃木短期大学は、平成28年3月に「栃木市と國學院大學栃木短期大学との包括連携に関する協定」を締結し、地域の課題解決および活性化、人材育成を図り、地域の振興と発展に寄与するとともに、教育の質の向上および経営の安定に関する連携を図ることとなった。また、令和3年4月、中村幸弘学長の7期14年の任期満了にともない、後任として林田孝和副学長が第7代学長に就任した。

平成24年度にこれまでの5学科を2学科5フィールドに再編、日本文化学科は日本文学・言語文化・日本史の3フィールド、人間教育学科は子ども教育・生活健康の2フィールドでそれぞれ構成される。

日本文化学科のうち日本文学フィールドでは実証的に総合的な日本文学研究に取り組み、創作文芸作品選集『あぢさみ坂』『文芸斯花』の刊行や課外研修旅行などをおこなっている。言語文化フィールドではグローバル化に対応した文学・文化・経済などの総合的な学びに取り組み、平成25年には教育・学術交流協定を締結していた韓国の漢陽女子大と「交換学生プログラムに関する協約書」を新たに締結した。日本史フィールドでは、体験的な授業や、地域での実践的な学びをおこない、「栃木県大学・地域連携プロジェクト支援事業」において、平成27年度「太平山麓の歴史遺産再発見」、平成28年度「太平山神社の絵馬～太平山麓の歴史遺産再発見PART2～」・「とちぎの古代遺産新発見」が採択された。また平成27年から奈良大学と共同で取り組んでいる中根八幡遺跡の発掘調査は、「平成28～30年度栃木県大学・地域連携プロジェクト支援事業」「令和元年度栃木県大学地域連携活動支援事業」に採択された。

人間教育学科のうち、子ども教育フィールドには、免許状・資格が取得できる小学校・幼稚園専攻と幼稚園・保育専攻が設けられ、研修・実習や体験なども取り入れた



國學院大學栃木短期大学

保育者・教育者の育成を行っている。生活健康フィールドでは食生活系・健康系・衣生活系・生活経営系の4つの分野の専門科目が設けられ、さまざまな免許・資格取得、検定などの受験支援を行っている。

國學院大學栃木中学・高等学校

平成8年の國學院大學栃木中学校設置にともない6年間の中高一貫教育を実現、先取り学習・習熟度別授業・特別講習など、基礎学力の向上を図りつつ、幅広い人間教育を目的に学校行事を大切にしている。中学では高校と同時開催の「國學院祭」(文化祭・体育祭)、芸術鑑賞、自然体験学習や、オーストラリアでの2週間のホームステイをおこなう海外研修などを実施している。

高校では「学力向上」を図るため、進路希望に対応したカリキュラムを持つコース制が導入されており、現在は普通科に中高一貫コース・特別選抜Sコース・特別選

抜コース・選抜コース・文理コースがおかれている。

また、高大連携授業や探究学習といった「キャリア教育」、外国人講師による英会話授業やアメリカ・ヨーロッパ・アジア各国への海外研修を通じた「国際理解」、学校行事や部活動に励むなかで得られる「感動体験」を柱とした教育の実践に取り組んでいる。

國學院大學栃木二杉幼稚園

國學院大學栃木二杉幼稚園では、平成27年度からスタートした、すべての子どもたちが健やかに成長していくために、子どもの育ちと、子育てを社会全体で支援する「子ども子育て支援新制度」に鑑み、平成29年度から幼稚園型認定こども園に移行し、新たに0～2歳児保育に対応できるよう体制を整え、保育の質の向上に努めている。



國學院大學栃木中学・高等学校



國學院大學栃木二杉幼稚園